

機械科 今年も「ものづくりマイスター」さんにご指導をして頂きます！

その2：アーク溶接作業

機械科では**ものづくりの基礎を学習**しています。ものを作ると言っても様々な加工の方法があり、一つ一つの技術には技術者の経験がしっかりと織り込まれて、現在に伝承をされています。

機械科では、特に**体得を大切**にしています。理論的にも学習はしますが、重視していることは、**実際に自分の手を動かしてやってみる**、ということです。何となく見ていることでも、やってみると**意外に難しい**ことは日常生活でもよく経験することです。

厚生労働省では建設業から製造業に至るまで百を超える職種を対象に、高度で洗練された技能を持つ「**ものづくりマイスター**」さんたちによる、中小企業や教育機関における技術指導を推奨し、技能検定や技能競技大会などにおいて、後継者の育成を目指して技術の伝承に取り組んでいます。

本校機械科では**学科の特色の目玉の一つ**として「**ものづくりマイスター**」さんに来て頂き、生徒に**本物の技術指導を体感**してもらっています。写真は機械科3年生3名が7月末に実施される高校生ものづくりコンテスト県大会の練習をしている様子です。

アーク溶接は電気を利用して高温を発生し、金属を溶かして接合する方法であり、強烈な光とともに高熱が発生するために**保護具を付けて作業**をしています。

理論も大切ですが、**感覚がより重要**であり、**繰り返し練習**をして**技能を体得**することが必要になります。

